



美術・工芸部門出展
全国高校総合文化祭



出展作品：「Imaginary」

「支えてくれた全てに感謝」

文化部のインターハイ「全国総文祭」への出展が決まったのは、今年1月の県高校美術展。509点の作品の中から優秀賞を受賞し、全国に出展される10点に選ばれた。制作期間は昨年秋から1月にかけて。見た人が楽しく、懐かしい気持ちになってほしいと思いを込めた。「制作期間が長いので、楽しく描きたい」と幼い頃の記憶をたどりながら、油絵「imaginary」を完成させた。「生徒会に入っていたので、制作に打ち込めない時期があった。その分を取り返そうと人知れず頑張っていた」と顧問の阿部和弘先生は振り返る。締め切り間際には、土日や年末年始も自主的に制作活動に取り組んだ。

「先輩たちが4年連続で全国に出展していたので、それに続けたいという気持ちが原動力になっていた。全国に出展できたのは、家族、友達、部活の仲間、そして先生の支えがあったから。本当に感謝している。これからもいろいろなことに挑戦して、表現の糧にしていきたい」。八谷の創作活動はこれからも続く。

八谷彩華 佐沼高3年



全国高校総合体育大会出場
アーチェリー競技 男子団体
登米総合産業高アーチェリー部
(写真左から、米倉佑・鈴木莉斗・遠藤瞭太・佐藤暁
(全員3年))

「チームで挑む楽しさ」

2年前、アーチェリー部に入部した4人。体験入部で、初めて弓を手にした。その年、宮城スタジアム(利府町)で開かれたインターハイに補助員として参加した彼らは、全国の強豪を目の当たりにする。「いつかは自分もこの大会に」。当時、心の奥底で芽生え、燃え上がった思いが今年実を結んだ。県総体、東北大会共に団体優勝をつかみ、目標だったインターハイに出場。会場の広さ、選手の多さとレベルの高さに緊張で足が震える。集中力を研ぎ澄ませ矢を射るが、合計点で振るわず、決勝に進むことはできなかった。4人は「満足できる点数ではなかったが、強い相手と対戦できることに胸が弾んだ。緊張はしたが、このチームで全国に挑戦できたことが楽しかった」と振り返る。千葉正俊監督は「団体初出場は、彼らの努力のたまもの」と目を細める。彼らはこれから進学、就職とそれぞれの道を歩む。友と出会い、努力を惜しまず培ってきた経験は、これからの人生における大きな財産となった。彼らの未来は無数の可能性を秘めている。

夏に挑む

Zoom Up Tome 2019 Special

「一音気迫の精神で」

全国総文祭日本音楽部門には、高校日本音楽定期演奏会県大会を勝ち抜いた最優秀校1校のみが県代表として出場できる。2年生の時に総文祭出場を逃した2人。「次の定期演奏会では、なんとしても最優秀賞を取る」と、部の精神「一音気迫」を胸に練習に打ち込み、総文祭への出場権を得た。

総文祭は最大25人で出場できるため、多くの出場校が15人ほどで構成する中、2人での演奏は佐沼高のみ。高校最後の大きな挑戦だった。演奏曲目は、桂離宮の素晴らしさに感動して創られた「箏二重奏曲 桂」。「息をぴったり合わせるのが難しかった」と千葉。菅原は「一番良く弾けた。3年生になり、箏の大切さや応援してくれる人たちへの感謝の気持ちが深まり、濃い練習ができた」と振り返る。総文祭での入賞は逃したものの「大会に至るまでの練習への関わりの中で、何を学んだかが一生の宝になる」と、コーチの佐藤佳世子先生は言う。卒業しても箏は続けたいと話す2人。これからも琴線に触れる音を目指し、奏で続ける。



全国高校総合文化祭日本音楽部門出場
佐沼高箏曲部
(写真左から、菅原未来(3年)・千葉美咲(3年))

「感謝の気持ち忘れない」

「学科が課題。全員がいい点数を取り、来年はさらに上位入賞を狙う」。昨年、全国大会に出場し、34位の結果に終わった時の千葉、佐々木、遊佐の言葉だ。あれから一年、新チームで挑んだ県大会。千葉が学科、佐々木が実技で満点を取るなど、上位入賞を占めた北方小は団体4連覇を果たし、全国大会に駒を進めた。千葉は「いつも支えてくれるみんなへの感謝の気持ちを忘れずに、精一杯挑戦したい」と決意を述べた。47チーム188人によって競われた全国大会。北方小は、実技で複数の選手が満点を取り、技術の高さを見せつけたが、総合順位は31位。昨年を上回る成績だったが、学科の課題を突破できなかった選手たちは、悔しさをにじませた。大会後も6年はクラブ活動に参加し、後輩を指導するのが北方小の伝統。選手たちは「後輩たちがさらに上位を狙えるように、自分たちが学んできたことを伝えていきたい」と先を見つめる。たくさんの人に支えられてきた感謝の気持ちは連鎖し、来年の夏に向けた北方小の新たな挑戦がまた始まる。



交通安全子供自転車全国大会出場
北方小自転車クラブ
(写真左から、佐々木杏理・遊佐祥太郎・千葉大冴・伊藤優輝・佐藤孝勝・門田愛世(全員6年))